

SSRI

Give me a break !

ちよつと一言

## ウクライナ侵攻でのロシアの敗北（その1） = 米国の 1/10 の国防費 =

藤岡智和

ロイタ通信が 8 月 4 日、ウクライナに侵攻するロシア政府が 2023 年の国防予算を当初の RUB4.98T (\$52.5B) から RUB9.7T (\$102B) にほぼ倍増したと報じた。ウクライナ侵略の長期化でロシアの戦費が膨張しているためという。

ロイタ通信によると、国防費の支出は 2023 年前半だけで RUB5.59T に達し、年間国防費を既に半年で超えていたという。

ストックホルム国際平和研究所(SIPRI)によるとロシアの国防費は、侵攻開始前の 2021 年には\$65.9B で世界第 5 位であったが、侵攻開始後の 2022 年には世界第 3 位の\$86.3B になっていた。

米国は FY21 が\$740.5B、FY22 が\$778B、FY23 が\$858B で、FY24 NDAA では\$886B になる。

このようにウクライナ侵攻前のロシアの国防費は米国の 1/11 にすぎず、2023 年ですら 1/8 にも届かない。にもかかわらずロシアはソ連時代の夢を捨てられないのか核兵器やその運搬手段である ICBM、更に極超音速兵器などの開発にただでも少ない予算を廻し、ASAT やキラー衛星など対衛星兵器まで手を伸ばしていた。

これではウクライナでの戦争に使用すべき通常の兵器が不足するのは当然である。

例えば F-35 のような第五世代戦闘機について、米国は数千機のオーダーで整備しようとしているのにロシアは数十機整備するのがやっとの状況である。

(2023 年 8 月 10 日)